Twinkle 東京女子医科大学学術リポジトリ
Tokyo Women's Medical University - Information & Knowledge Database
https://twinkle.repo.nii.ac.jp

Cerebral Palsy and Intellectual Disability in the Children of Women with Chronic Kidney Disease

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-02-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 土山, 史佳 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00032090

主 論 文 の 要旨

Cerebral Palsy and Intellectual Disability in the Children of Women with Chronic Kidney Disease

（慢性腎臓病合併妊婦における児の長期予後に関する臨床的検討）

東京女子医科大学産婦人科学教室
（指導：松井 英雄 教授）
土山　史佳

Pediatric neurology 73 巻　71-77 頁　2017 年発行に掲載

【要旨】

今回我々は，慢性腎臓病（Chronic kidney disease; CKD）合併妊娠における児の長期予後として脳性麻痺（cerebral palsy ; CP ）及び知的障害（intellectual disability ; ID）の発生について後方視的に検討した．2001 年からの 10 年間に当院で周産期管理を行った CKD 合併妊娠 139 例（156 妊娠）を対象とした．透析例，胎児奇形例，多胎妊娠例は除外し同期間に管理を行った偶発合併症のない単胎妊娠 3,067 例と比較検討を行った．比較検討には χ^2 検定，Mann-Whitney 検定を用い，5%未満の危険率をもって有意差ありとした．さらに CKD 群と対照群の多変量解析の結果，CKD 群において初産婦（オッズ比(OR): 4.07, 95% 信頼区間(CI): 2.78–5.95), 妊娠高血圧性腎症(OR: 6.44, 95% CI: 3.92–10.59), 新生児脳室内出血(OR: 7.71, 95% CI: 2.05–28.92), Apgar score5 分値 7 点未満 (OR: 0.51, 95% CI: 0.27–0.96)が抽出され，有意差が認められた． 脳性麻痺及び知的障害を発症する CKD 群と対照群との事後確率は 0.002610 対 0.0190 と，CKD 群で 7.2 倍脳性麻痺・知的障害の発生率が高いことが判明した．本研究は CKD 合併妊娠において，脳性麻痺・知的障害などの児の長期予後について示すことができた初めての研究である．